

持続可能な島・佐渡の実現に向けて ～ローカルSDGsの創出～



佐渡市役所 企画部総合政策課 課長 笠井 貴弘

目次

1. 佐渡市（新潟県）について

2. 地域循環共生圏（ローカルSDGs）の創出
に向けた取組

佐渡市(新潟県)の概要

一般会計
当初予算額

令和6年度
480億円

令和5年度
512.2億円



産業は
農業・建設業・観光業が主体



日本最大の離島 (沖縄を除く)

面積	855 km ²
海岸線 (周囲)	280 km
人口	51,492人 (R2.10.1国勢調査) ※ 48,655人 (R6.5.末 住民基本台帳)
市内総生産額	1,581億円 (R3年度市町村民経済計算)
産業別就業人口	第1次産業 4,724人 (18.0%) 第2次産業 4,093人 (15.5%) 第3次産業 17,486人 (66.5%)
	26,303人

佐渡市を取り巻く現状と課題

人口減少の加速化

国勢調査人口

令和2年 51,492人
平成27年 57,255人
増減 ▲5,763人 (県内市町村27/30位)

出生数

令和5年 180人
平成27年 347人
増減 ▲167人

少子化・高齢化

高齢化率 (4.1現在)

令和6年 43.0%
平成27年 39.4%
増減 +3.6%

地域経済・産業の縮小

課題先進地

ライフラインへの影響

環境

社会

地域コミュニティ 機能の低下

経済

文化

市町村内総生産・実額

令和3年 1,581億円
平成27年 1,703億円
増減 ▲122億円

限界行政区数 (4.1現在)

令和6年 304/(707)行政区
平成27年 195/(708)行政区
増減 +109行政区

※65歳以上の高齢者が住民の半数以上の地区

化石エネルギーの島
生態系サービスの低下

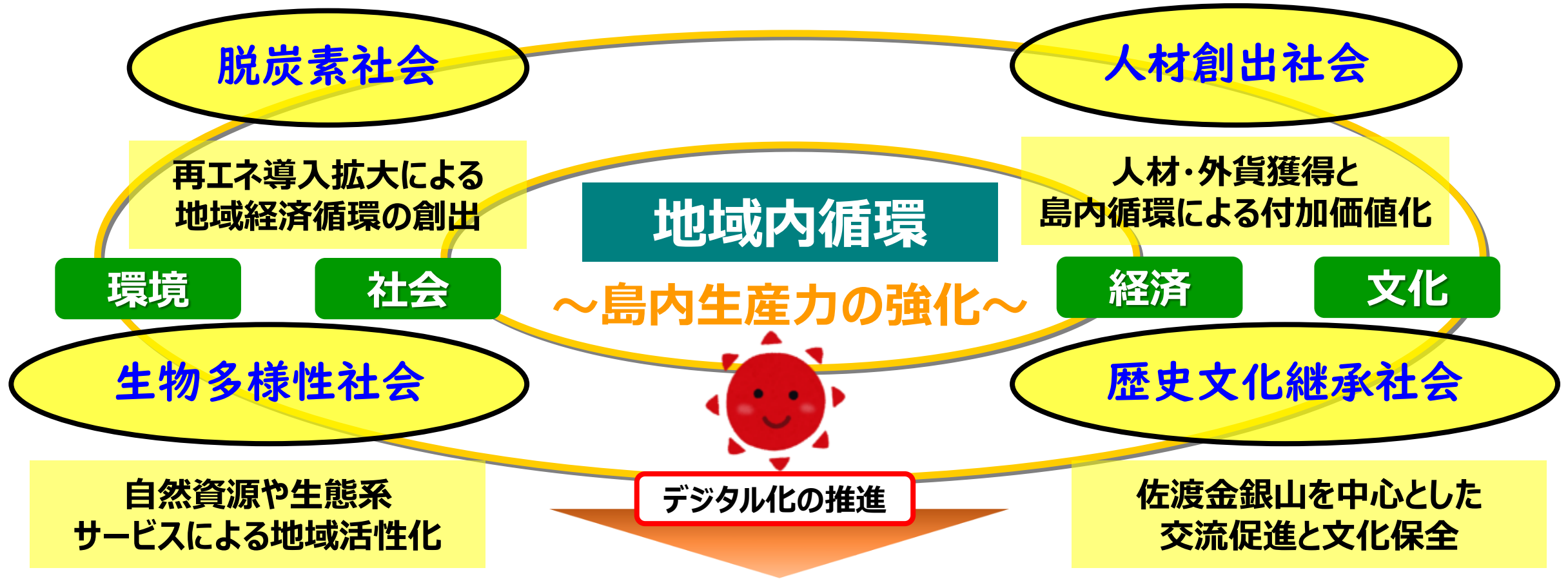
ライフライン (病院、水道、
道路) の危機

経済規模の縮小
小規模企業の衰退

地域・集落の喪失
伝統・文化の喪失

現状を踏まえた抜本的な対策(持続可能な仕組み)が必要

地域循環共生圏(ローカルSDGs)の創出



地域循環共生圏の創出から課題解決先進地へ

交通確保

医療確保

安全・安心な島づくり

防災対策

インフラ整備

目次

1. 佐渡市（新潟県）について

2. 地域循環共生圏（ローカルSDGs）の創出
に向けた取組

トキと暮らす里山・里海文化

×

ローカルSDGs（地域循環共生圏）の創造

私たちは、トキと暮らすこの島で、先人たちが育んだ里山・里海文化を未来へ継承するため、脱炭素、資源循環、自然共生の3つの理念の実現を目指し、ローカルSDGsとも言われる環境・経済・社会を統合するための「地域循環共生圏」の創造に向けた取組を推進します。

また、「SDGs日本モデル」宣言に賛同し、人口減少・超高齢化などの社会的課題の解決と持続可能な地域づくりに向けて、市民、企業・団体、学校・研究機関等との協働を進め、絶滅したトキの野生復帰を果たし、生物多様性の保全に取り組む離島佐渡から日本の「SDGsモデル」を世界に発信することを決意して、ここに宣言します。

令和3年11月21日

佐渡市長 渡辺 竜五

「SDGs未来都市」選定



自然人が豊かにトキと暮らす黄金の里山・里海文化、佐渡
～ローカルSDGs佐渡島、自立・分散型社会のモデル地域を目指して～



令和4年5月20日選定

佐渡SDGsパートナー

佐渡市とともにSDGsの取り組みを実施していただける
企業、NPO、団体の方々と連携して、
SDGsの普及啓発および持続可能な取り組みを
推進することを目的としています。

応募条件 佐渡市内でSDGsの推進に寄与する取り組みを行っていただくこと

申請方法 下記のホームページから申請書をダウンロードの後、必要事項を記入し、メールにて提出ください。

ホームページ <https://www.city.sado.niigata.jp/site/sdgs/41476.html>



佐渡 SDGs パートナー 検索

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



令和6年5月末日現在、103の企業等が参加

地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例

歴史・文化の継承を18番目のゴール（目標）として設定!!

国からSDGs未来都市等に選定された自覚を深め、多様なパートナーシップのもと、島全体でSDGsを推進し、自然豊かな佐渡の特徴や地域資源を有効活用しながら、**歴史・文化と環境・経済・社会を循環**させ、持続可能な島づくりを実現していくための共通の指針として条例を制定

2018年4月に閣議決定された第五次環境基本計画において、国際連合「持続可能な開発目標（以下「SDGs」という。）」や「パリ協定」といった持続可能な社会に向けた国際的な潮流や国内でも複雑化する環境、経済及び社会の課題を踏まえ、「地域循環共生圏」が提唱された。

一方、社会や環境等に適応しながら営まれた農業や生物多様性の保全、また、それらとともに育まれてきた文化や景観を継承することを目的とした世界農業遺産（GIAHS）の認定から10年が経過した本市では、「歴史と文化が薫り、人と自然が共生できる持続可能な島」を基本理念に掲げた最上位計画の「佐渡市総合計画」を多くの市民等の参画を経て策定した。

ここに、私たちは、2022年5月に国から「SDGs未来都市」に選定された自覚を深め、2030年の目標達成に向けて、SDGsや地域循環共生圏の考え方を理解し、将来あるべき姿や希望を共有するとともに、目標達成に向けた取組を推進し、人口減少や少子高齢化が進む中であっても、あらゆる人たちが活躍できる持続可能な地域社会を築き、離島佐渡から日本の「SDGsモデル」を世界に発信していくことを決意して、この条例を制定する。

（目的）

第1条 この条例は、SDGs及び地域循環共生圏の考え方を取り入れ、ステークホルダーが相互に連携し、本市及び地域社会を取り巻く諸課題を統合的かつ横断的に解決することにより、豊かで持続可能な島づくりの実現に資することを目的とする。

以下省略

・
・
・

令和5年3月23日議決、4月1日施行

全会一致

脱炭素先行地域選定証

新潟県 佐渡市
新潟県

貴団体の提案は2050年カーボンニュートラルに向けて地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する脱炭素の実現の姿を2030年度までに示す優れたモデルであることから脱炭素先行地域に選定しこれを証します

令和4年6月1日

環境大臣

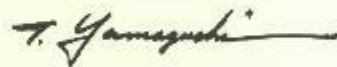
山口 健

Decarbonization Leading Area Certificate

Sado City, Niigata Prefecture
Niigata Prefecture

Your organization proposes an excellent model which shows a path toward decarbonization by FY2030 and regional revitalization. The proposal will eventually contribute to attaining the national target of carbon neutrality by 2050. I hereby present your organization with this certificate of recognition as a Decarbonization Leading Area.

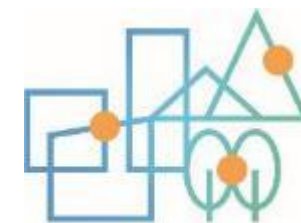
June 1st, 2022



YAMAGUCHI Tsuyoshi
Minister of the Environment, JAPAN



令和4年4月26日選定通知、6月1日選定証授与



新庁舎への太陽光発電設備の導入

新庁舎屋上に太陽光発電設備



平常時

【再生可能エネルギーの導入（太陽光発電）】
市役所の消費電力を、将来的に太陽光で発電した電気で
100% 賄うことを目標としています。



令和5年10月31日交付
佐渡市本庁舎が「ZEB
Ready」を取得



ZEB庁舎へ

構造・規模

- 【新庁舎】：鉄筋コンクリート造3階建て（一部鉄骨造）
延床面積 5081.08㎡
- 【旧庁舎】：鉄筋コンクリート造3階建て
延床面積 2984.98㎡

災害時

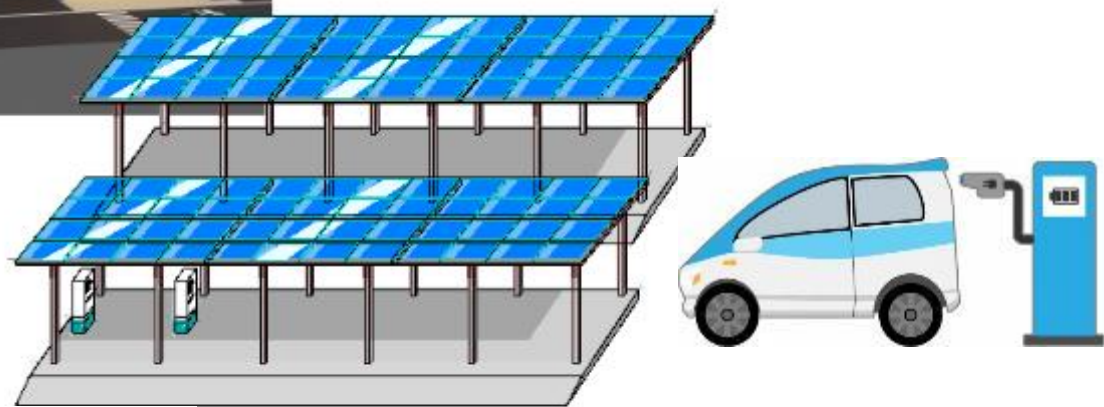
庁舎電力に活用

- ・照明（LED）
- ・充電用コンセント

+

電気自動車を利用し、
必要な場所へ電気を供給
（広い地域をカバー）

ソーラーカーポートを整備



公用車のEV化と充電設備の整備
（大型蓄電池も同時に）

「脱炭素と災害に強い庁舎」を同時実現

令和4年12月大雪災害に伴う被害

12月18日及び23日の大雪により、島内一帯で
倒木、倒竹が発生 → 断線による停電発生



アスファルトに比べ、路面温度の上昇抑制、
景観性・歩き心地の改善なども期待

竹材 固化材

補強材



竹チップを活用した環境にやさしい土系舗装

放置された竹を、土木分野の新しい技術に活用



同時に“100%再エネ由来”のEVスポットを整備



平成19年 発足



水田や水路に江(深み)を設置



ビオトープの設置

「生きものを
育む農法」
を農業技術へ

生態系
の再生



ふゆみずたんぼ(冬期湛水)



魚道の設置

産官民が一体となった取組



平成20年9月 第1回試験放鳥 27年ぶり野生復帰へ

現在500羽を超えるトキが島内で生息

日本初 世界農業遺産に認定



認定された農業遺産システム名
「トキと共生する佐渡の里山」

トキとの共生を目指した「生きものを育む農法」や棚田などの風景、伝統的な農文化などが評価され、平成23年、佐渡市は日本で初めて世界農業遺産に認定された。



ネイチャーポジティブ佐渡島宣言

今、世界では、カーボンニュートラルに続く国際的な問題として、生物多様性の保全が取り上げられ、「2030年までに生物多様性の減少傾向を食い止め、回復に向かわせる」という地球規模の目標(ネイチャーポジティブ)へのコミットが表明されています。

1981年に野生絶滅したトキを2008年に野生復帰させ、現在569羽にするなど、生物多様性の保全に取り組む佐渡市では、このネイチャーポジティブの実現に向けて、ゼロカーボンアイランドの推進とともに、自然への投資や循環型経済が促進されるよう、次の活動を行います。

- 1 佐渡市では、保護地域および保護地域以外の場所で生物多様性保全に貢献する場所(OECM)が既に30%を超えているが、今後、さらに拡充させること
- 2 他地域の生物多様性を減少させる資源の移入・使用について、現状を把握し、削減に努めるとともに、自然環境や生物多様性の保全を発展的に展開することで、新たな産業創出等につなげること
- 3 トキとの共生を実現した地域として、ネイチャーポジティブに向けた知見・経験を他地域と共有しながら、生物多様性保全のパートナーシップを拡大すること

以上、ここに「ネイチャーポジティブ」を宣言し、地域循環共生圏の創出と安心して暮らし続けられる島づくりを目指して実践することを誓います。

令和4年10月23日

佐渡市長

渡辺 竜五



令和4年10月23日宣言

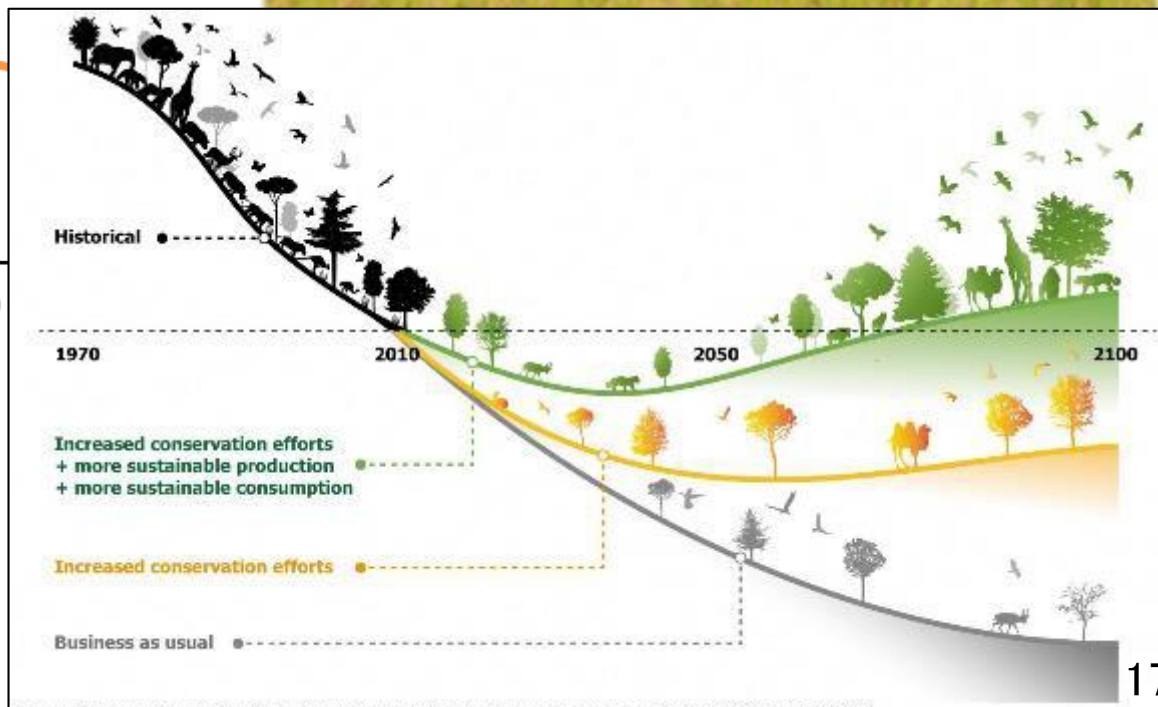
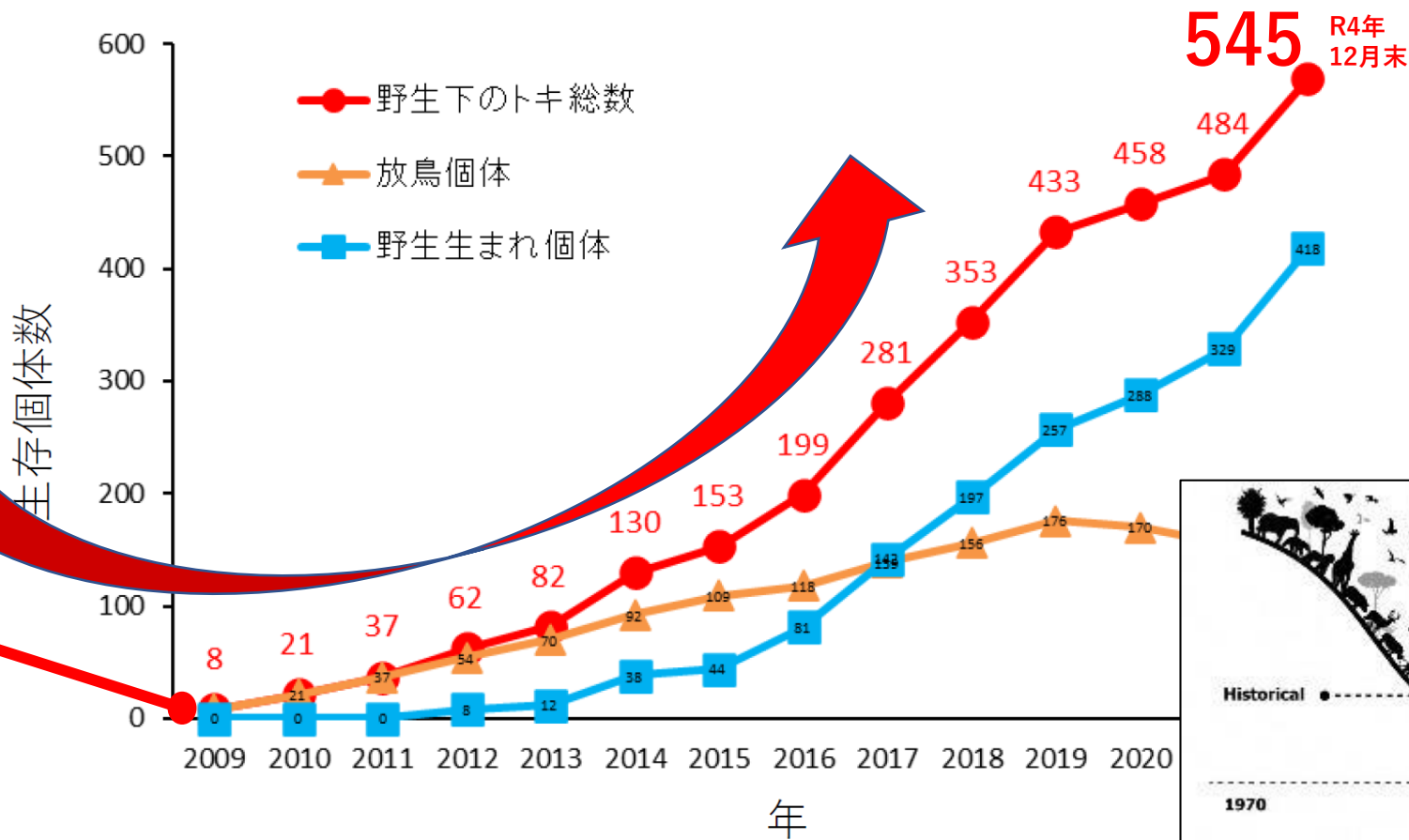


環境大臣、農林水産副大臣、県知事からもメッセージ



- 1 佐渡市では、保護地域および保護地域以外の場所で生物多様性保全に貢献する場所(OECM)が既に30%を超えているが、今後、さらに拡充させること
- 2 他地域の生物多様性を減少させる資源の移入・使用について、現状を把握し、削減に努めるとともに、自然環境や生物多様性の保全を発展的に展開することで、新たな産業創出等につなげること
- 3 トキとの共生を実現した地域として、ネイチャーポジティブに向けた知見・経験を他地域と共有しながら、生物多様性保全のパートナーシップを拡大すること

トキと人との共生を実現中

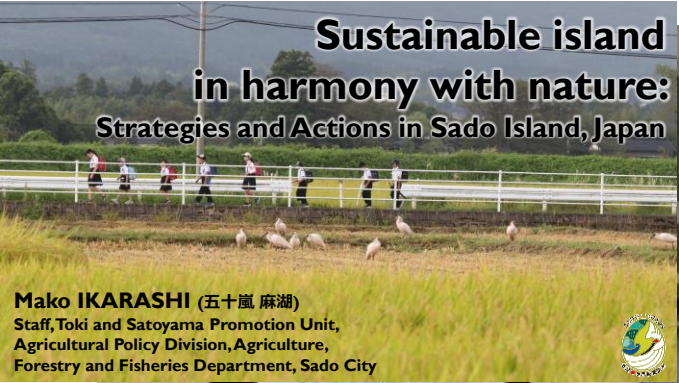


トキの個体数の推移（繁殖期終了後）

トキ個体数↑は、まるでネイチャーポジティブのよう→

This artwork illustrates the main findings of the article, but does not intend to accurately represent its results (<https://doi.org/10.1038/s41586-020-2705-y>)

令和4年12月にカナダで開かれた国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で **佐渡の取組を多数発表**



公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)、
イクレイ日本(持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会)、
環境省、共同通信社と連携

「起業成功率No. 1の島」をブランディングするため、令和3年より「佐渡ビジネスコンテスト」を開催



審査員は投信会社をはじめとする企業経営者



佐渡ビジネスコンテスト2024 **グランプリ**
株式会社 佐渡活

「植木業と牡蠣養殖業」人手不足産業の組合せによる
量的質的事業拡大へのチャレンジ

インキュベーションセンター河原田本町



古民家再生による商店街の賑わい再生



- 商店街の中心部にある空き家（古民家）をインキュベーションセンターとしてリノベーション
- スタートアップ拠点として、ITベンチャー企業5社が既に進出済み
- 市民がIT技術を学べる場所を提供、新潟大学サテライトが入居するなど若者が集う空間づくりを推進

地域が目指す将来像にむけて産学官民連携による様々なプロジェクトを共創

社会実装の見える化

経済



連携・協力の覚書締結

地域住民や地元企業との
協働による自然共生の
多彩なプロジェクト

共創の社会インフラとしてのラボを育てていくことで、
情報共有、コミュニティ形成、相乗効果の創出を図る

民

市民の発案による
ハンズオン事業

産

企業の技術提案
社会実証実験

学

大学が展開する
研究プロジェクト

官

自治体による市民
参加の政策デザイン

社会



令和4年11月19日 開設

佐渡島自然共生ラボ

プロジェクトが展開・連携するための共創のしくみ

環境

「佐渡島（さど）の金山」



イコモス勧告に基づき、ユネスコ世界遺産委員会で
登録の可否を審議・決定予定（インド：令和6年7月21日～）



宵乃舞



鬼太鼓



新能

持続可能な島・佐渡の実現に向けて



デジタル化の推進



ネイチャーポジティブ



1 貧困をなくそう	2 気候をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



自立・分散型の再生可能エネルギーのベストミックス

人と自然との共生

多様な地域資源の持続的な活用

ローカルSDGsの創出 地域経済の好循環

地産地消と食育の推進



健康寿命日本一へ
誰もが活躍できる島づくり



文化の継承と
集落コミュニティの維持

